

平成 29 年度 事業中間報告書 (12 月 1 日現在)

コース	<input type="checkbox"/> 自主事業コース <input type="checkbox"/> 協働市民提案コース <input checked="" type="checkbox"/> 協働行政提案コース
事業名	若者地域参加活動創出事業～若者の中間的就労支援は MammaCafe から～
団体名	「倉敷のかあさん」 MammaCafe
担当課	教育委員会生涯学習課

1 事業の成果

平成 29 年度申込書（様式第 2 号）に記載した「5(2)事業の実施に期待する効果」に対応する成果を記入してください。（※実施した事業の詳細は「4 事業実施記録」に記入してください。）

- ① ・カフェでの経験から、K 子さんは、食事を作ることがしたいと老人施設の厨房に就職しました。また、外国の方とも友達になりたいと、京都や広島に旅行に出かけスマホアプリを使って友達になったりしています。
- ・Y 君は、ワークショップの手伝いから自信となり、来春には大学生になります。警察署から、優良生徒として表彰も受けました。
- ・夜間の高校に行っている R 君は、接客がにがてで裏方の手伝いをしていていましたが、今はスーパーで品出しのアルバイトをしています。
- ・お母さんの力になりたいと高校には行かず、アルバイトを転々としていた M 子さんは、1~2 か月すると続かなかったけど MammaCafe では、もう少しで 1 年になります。
- ・長い間、家から出られなかった U 君は手先がきょうでカフェの箸袋を作ることから、お金が欲しいと感じ、少しずつ外に出れるようになってきた、支援員と一緒に作業場とかの見学や、内職を持ち帰ってみたりしている。
- ② ・「若者を語る会」では、ネットワークができました。情報交換が個々にでき始めました。次の課題として、この会で一緒に何か事業が出来ればと話しています。ただ、まだまだ自分自身が大変（自分自身の課題をかかえている）な方も、いらっしゃいます。この場所が、また居場所になっている。
- ③ ・やはり、若者の中間的就労体験ができる場所は必要であり、継続していくことが大切であると考えられる。
- ・居場所的な、拠点が必要だと考えられる。

2 事業の自己評価

事業の成果を自己評価すると何点になりますか。計画通りであれば 100 点とします。なお、想定を大きく上回る成果を得ている場合は 100 点を超える点数を記入してください。

150 点

3 事業の課題

事業を実施する中で見えてきた課題を記入してください。

- ・継続していくためには、資金の調達が必要。
- ・居場所、拠点の場所が必要。
- ・カフェだけではなく、外には出られないが、手先が器用な人も多いので、内職的な就労支援が必要。
- ・スタッフの新旧交代が必要になってきている。スタッフに給料等払える環境が必要になってきている。ボランティアでは限界がある。

4 事業実施記録

実施した事業の詳細を記入してください。

実施内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の人数
毎月2回のカフェ開催	4月～11月 第3、第4日曜日	町家トラスト事務所	各3～5名 ボランティア1～2名	若者就労 体験者 毎回2～3名
ワークショップ ホウ酸団子づくり	5月21日	同上	4名	参加者6名
七夕飾りを作ろう	8月6日	同上	3名	参加者11名 初めてお手伝いに くれた若者1名
若者を語る会	6月18日	同上	3名	参加者16名 16名
	10月	同上	3名	